

日本語教師初任者(外国人児童生徒等)研修

第4回 子どもが理解しやすい言い換え・書き換えを考える

鎌田 美千子 先生(宇都宮大学)

- [実施日時] 2019年9月22日(日) 10:30~16:10
[実施会場] 郡山市中央公民館 (ZOOMによる同時配信)
[授業者] 鎌田美千子 (宇都宮大学准教授)
[授業形態] 講義・ワークショップ
[目標] 子どもの言語能力の発達、文章理解プロセスをふまえて子どもが理解しやすい言い換え・書き換えを考えることができるようになる。

[特に目指す受講者の知識・技能・態度]

- 知識 ②子どもの言語習得や言語運用の特性に関し基礎的な知識を有している。
③子どもの言語学習支援の方法や、教科等の学習と日本語指導を関連付けることの重要性について理解している。
技能 ④自身の支援を振り返り、改善しようと試みる。
態度 ①子どもたちが、将来どのように社会の一員として生活するのかをイメージして、日本語学習支援の内容や方法を考えて実践しようとする。

[内容]

はじめに

JSL 児童生徒をめぐる教育の問題を考える四つの視点
母語による支援・日本語による支援
一次のことばと二次のことば
「日常的なことば」から「教科のことば」へ
経験と理論と実践をつなげて考える

第I部 理論編

- 1 子どもは、どのようにして読めるようになっていくのか
 - (1) 「読み」の発達
 - (2) 就学後の言語能力の発達
 - (3) 話しことばと書きことば

- 2 単語と文法がわかれば読めるのか—認知心理学の視点から—
 - (1) 文章を理解するプロセス
 - ・ボトムアップ処理
 - ・トップダウン処理
 - (2) スキーマとスクリプト
 - ・理科教科書の例

- 3 もとの表現を言い換えるだけでよいのか
 - (1) 文章を通じた理解に向けて
 - ・リライト教材とは
 - ・学びの段階に合わせた教材づくり
 - ・教科書リライトの二つの方向性
 - ・学習支援におけるリライト教材の活用
 - ・リライト作成上の着眼点

第Ⅱ部 実践編

リライトにあたって

- ・日常語の扱い
- ・日本での生活経験を前提とした文
- ・抽象語をどのように言い換えるか

ワークショップ①

理科教科書の一部をリライトした2つの文章を比較する

ワークショップ②

社会科教科書（公民）の文章を各自リライトし、グループで共有した後、リライトした文章を改善する

第Ⅲ部 ふり返りと共有

発達段階における「ことば」の役割

受講者から一人一言の学びの共有

おわりに

〔成績評価方法〕

- ・講義への出席後またはZOOMによる講義の視聴後、課題を提出する。
- ・他の講義と併せて、80%の出席と課題の達成度60%で修了証を授与する。
- ・本講義の課題：理科教科書のコラム欄から、日本での生活経験を前提とした記述を見つけ、本講義で学んだことを活かしながらリライトすること。

〔参考書等〕

庵功雄（2016）『やさしい日本語—多文化共生社会へ—』岩波書店

鎌田美千子（2016）「日本語を第二言語とする子どもたちのためのリライト教材作成に関する方法論的検討—日常会話レベルから教科書レベルへの橋渡し—」『宇都宮大学留学生教育研究論集』7号, 3-10.

<http://hdl.handle.net/10241/00010445>

鎌田美千子（2018）「教科書の文章とパラフレーズ—日常語・抽象語・背景知識・主体的な学び—」宇都宮大学国際学部編『多文化共生をどう捉えるか』下野新聞社, 165-169.

鎌田美千子（2019）「指導段階および教科に応じた教科書リライトの方法論的検討」『宇都宮大学国際学部研究論集』47号, 33-39. <http://hdl.handle.net/10241/00011847>

鎌田美千子・仁科浩美（2014）『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

光元聰江・岡本淑明（2016）『外国人・特別支援 児童・生徒を教えるためのリライト教材』ふくろう出版